

# 令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年3月13日  
函館市立桔梗小学校

## 1 学校教育目標

・心をひろくもつ子 ・頭をつかう子 ・体をきたえる子

## 2 取組の重点

- ① よりよい人間関係を醸成する教育活動の推進 ② 「いじめ」「不登校」等の未然防止や早期発見・早期対応  
③ ICTを活用した子供一人一人が主語となる学びの充実を図る主体的・対話的で深い学びに向かう授業の構築  
④ ICTも活用した基礎基本の確実な習得と活用を図り、思考力・判断力・表現力といった学力の定着  
⑤ 情報の提供と保護者・地域との双方向による連携の強化 ⑥ 各種学校との連携の充実

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の適切さ	主な意見(改善策など)
よりよい人間関係を醸成する教育活動の推進	感謝の気持ちを持ち、仲間とともに高め合える教育活動の推進を図ることができたか。	a	よりよい人間関係を醸成するために、今後は、個々の児童の小さな変化を見逃さない「きめ細やかな教育相談」と、家庭・地域との価値観の共有をさらに強化していく。アンガーマネジメントや肯定的な声掛けが学校生活のあらゆる場面で機能するよう、学年・学級間の連携をより密にし、全校体制で児童の発達を支える教育活動を推進していく。	A	A	
	アンガーマネジメント(あだ名・呼び捨ても含む)を意識し、よい人間関係を醸成する指導を図ることができたか。	a		A	A	
	支持的風土を醸成する学年・学級経営の充実を図ることができたか。	a		A	A	
「いじめ」「不登校」等の未然防止や早期発見・早期対応	いじめ・不登校傾向のある児童の早期発見を図り、保護者や関係機関との連携を強化しつつ、早期解決に向けて取り組むことができたか。	a	今年度は定期的なアンケートや教育相談により、事案の早期発見・早期解決に一定の成果が得られた。今後は、把握した情報を組織的に分析する精度をさらに高め、不登校支援コーディネーターを中心とした迅速な初期対応を定着させていく。また、児童一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援計画の作成を推進し、教職員間での共通理解を一層深めていく。さらに、保護者とは日頃から多角的な情報共有を行い、いじめ防止基本方針に基づく学校の対応への信頼関係をより強固なものにしていく。	A	A	支援コーディネーターを中心とした組織的な初動体制の構築が、具体的な成果として表れていると思います。アンケートの定期的な実施や教育相談の充実により、学校が「小さなサイン」を見逃さない姿勢を示していることがよいです。
ICTを活用した子供一人一人が主語となる学びの充実を図る主体的・対話的で深い学びに向かう授業の構築	ICT機器を効果的に活用し、自己調整型学習を目指した選択的、複線的、自由進歩的な学習活動を取り入れた授業作りに取り組むことができたか。	b	これまで構築してきた端末利活用の基盤と外部研修の成果を活かし、今年度はICTを「使うこと」から「学びを深める道具」として定着を図ってきた。一方で、学年や教科によって活用頻度や「自己調整型学習」の取り入れ方に差が見られた。今後は、新しいかたちの学び授業力向上推進チームやICT支援員との連携を継続しつつ、公開授業研究会で得た知見を全校で標準化し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を組織的に加速させていく。	A	A	
ICTも活用した基礎基本の確実な習得と活用及び、思考力・判断力・表現力等の定着	学習用パソコンやデジタル教科書などのICT機器を効果的に活用した授業づくりに取り組むことができたか。	a		A	A	「本(文字)を読む」「手を動かして書く」ことも大切ではないかと思っています。デジタルとアナログのバランスが大事なのではないでしょうか。
情報の提供と保護者・地域との双方向による連携の強化	コミュニティスクールの活動など(含PTA各種ボランティア活動、学校だよりやリーフレットなどによる情報共有)を通して、学校・地域・家庭の連携の充実と強化を図ることができたか。	a	ホームページやメールによる迅速な情報発信とともに、ボランティア型のPTA活動やCS会議、地域行事への参加を通じた連携基盤の構築に努めてきた。今後は、ICTを双方向のコミュニケーション手段としてさらに活用し、地域行事や学校支援への参画を促進することで、地域全体で子供を育てる体制を深化させていく。	A	A	子どもたちと地域とでできる活動(例えば、クラブ活動のようなものを地域で担っていく等)を検討していくことができればと思います。あわせて、地域にある居場所の活用について、共に検討できればと思います。
各種学校との連携の充実	高等学校、中学校、幼稚園・保育園との連携の充実と推進を図ることができたか。	a	今年度は特に、幼稚園・中学校との接続に重点を置いて取り組んだ。中学校の乗り入れ授業や授業参観、幼稚園への保育体験や入学前学校見学を計画的に実施し、円滑な接続と不登校等の未然防止に努めてきた。今後も、情報共有の場をさらに充実させ、一貫した教育活動の推進と多面的な児童理解に組織的に取り組んでいく。	A	A	私たち地域住民も、学校の活動により深く参画・貢献したいと考えています。今後も情報共有を密にし、共に子どもたちを見守る体制を強化できるとよいと思っています。

### ■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

### ■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。